

## 宗像大社所蔵資料 平成二十八年度調査概報

野木 雄大

### はじめに

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界遺産としての価値、すなわち「顕著な普遍的価値」は、これまで蓄積された調査や研究によって担保されている。主要なものとしては戦前から編纂が行われた大著である『宗像神社史』上・下・附巻（宗像神社復興期成会編、一九六一年・一九六六年・一九七一年）、その編纂過程で沖ノ島祭祀遺跡の調査と価値の解明が求められて行われた三次にわたる発掘調査の報告書である『沖ノ島宗像神社沖津宮祭祀遺跡』（宗像神社復興期成会編、吉川弘文館、一九五八年）、『統沖ノ島 宗像神社沖津宮祭祀遺跡』（同、一九六一年）、『宗像沖ノ島』（第三次沖ノ島学術調査隊編、宗像大社復興期成会、一九七九年）がある。また、構成資産に関わる報告書として『新原・奴山古墳群 津屋崎町文化財調査報告書第六集』（津屋崎町教育委員会編、一九八九年）、『大島御嶽山遺跡―福岡県宗像市大島所在遺跡の発掘調査報告―宗像市文化財調査報告書第六四集』（宗像市教育委員会、二〇一二年）、自治体史として『宗像市史』通史編第一巻～第四巻・史料編第一巻～第四巻・別巻（宗像市史編纂委員会編、一九九四～一九九九年）、『玄海町誌』（玄海町誌編纂

委員会、一九七九年）、『大島村史』（大島村教育委員会編、一九八五年）、『津屋崎町史』通史編・資料編上下巻・『津屋崎の民俗 津屋崎町史民俗調査報告書』第一集～第四集（津屋崎町史編さん委員会、一九九六～一九九九年）、『福岡町史』通史編・資料編一～四（福岡町史編集委員会、一九九七～二〇〇〇年）が刊行されている。さらに、宗像市合併後の市制十周年を契機として「新修宗像市史」の編纂も企図されている。

世界遺産登録活動の中で、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議は、平成二十三年度～二十五年度に委託研究事業を実施し、計三十三本の論考を掲載した『研究報告』Ⅰ～Ⅲを刊行した。二十六年からは本遺産群をめぐる研究の進展を目指して『沖ノ島研究』を発行し、研究成果の公開を行っている。

宗像地域の歴史や世界遺産としての価値は、宗像大社が所蔵する数多くの考古資料や文献史料の調査・研究によって明らかになってきたことはいうまでもない。このような研究の進展に際して、世界遺産としての価値をより一層究明し、価値を含めた遺産群の公開・活用に資するために、宗像大社所蔵の資料についてさらなる調査・研究を行うことは必要不可欠である。そこで、平成二十八年度から大社所蔵資料の調査が開始される運びと

なった。平成二十八年度は、未整理の状態です。宗像大社に所蔵されている資料を中心として、全体の状況の把握を行った。本稿は平成二十八年度調査の概要を記すものである。

## 一・考古資料

### (一) 国宝「福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品 伝福岡県宗像大

#### 社沖津宮祭祀遺跡出土品」の指定経緯

沖ノ島祭祀遺跡の出土品は、約八万点が一括で国宝に指定されている。しかし、その数はかつて十萬点とも十二萬点ともいわれており、未だ点数と指定経緯についての認識が統一されていない状況である。本節では、宗像大社神宝館学芸員の福岡真貴子氏が平成十八年に行った講演をもとに、八萬点が国宝指定に至った経緯について述べることにする（【図一】参照）。

沖ノ島祭祀遺跡の発掘調査は、三次にわたって行われた。

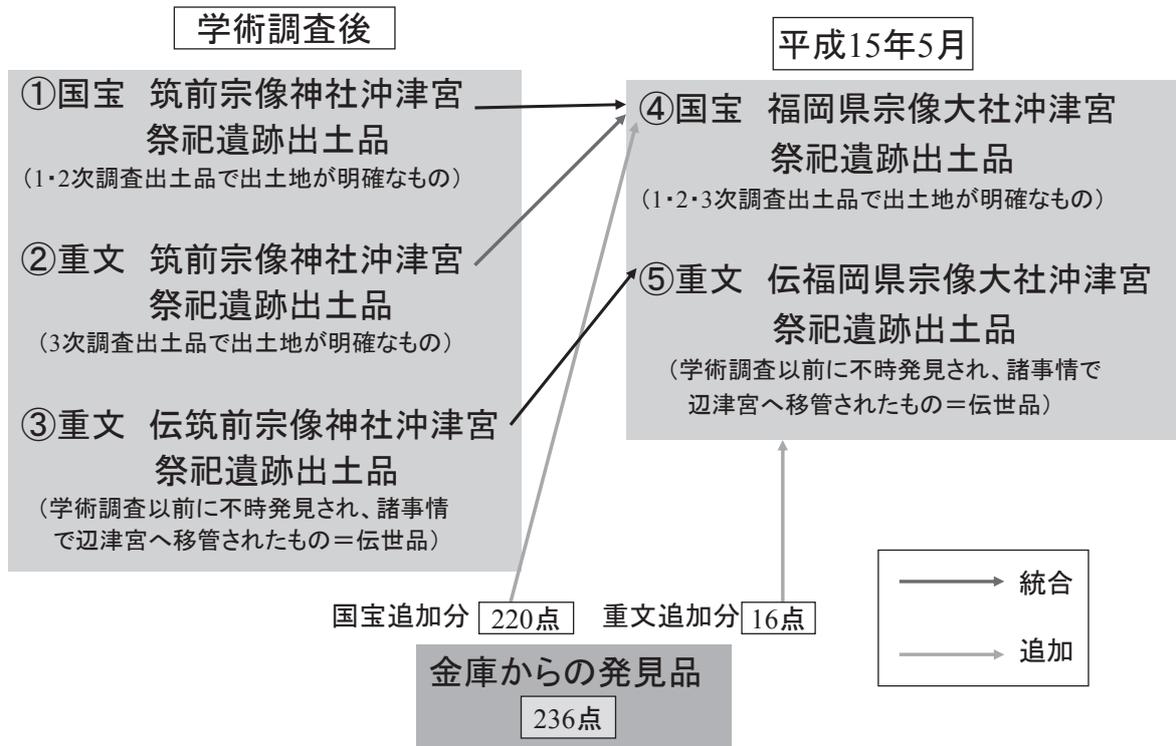
- ・第一次 第一回調査 昭和二十九年五月二十九日～六月四日  
第二回調査 昭和二十九年八月五日～八月二十日  
第三回調査 昭和三十年六月五日～六月十二日  
第四回調査 昭和三十年十月十七日～十一月二日
- ・第二次 第一回調査 昭和三十二年八月十六日～八月二十六日  
第二回調査 昭和三十三年八月二十三日～九月七日
- ・第三次 第一回調査 昭和四十四年九月二十八日～十月二十日

- 第二回調査 昭和四十五年五月五日～五月二十五日
- 第三回調査 昭和四十五年九月二十六日～十月二十日
- 第四回調査 昭和四十六年五月九日～五月十八日

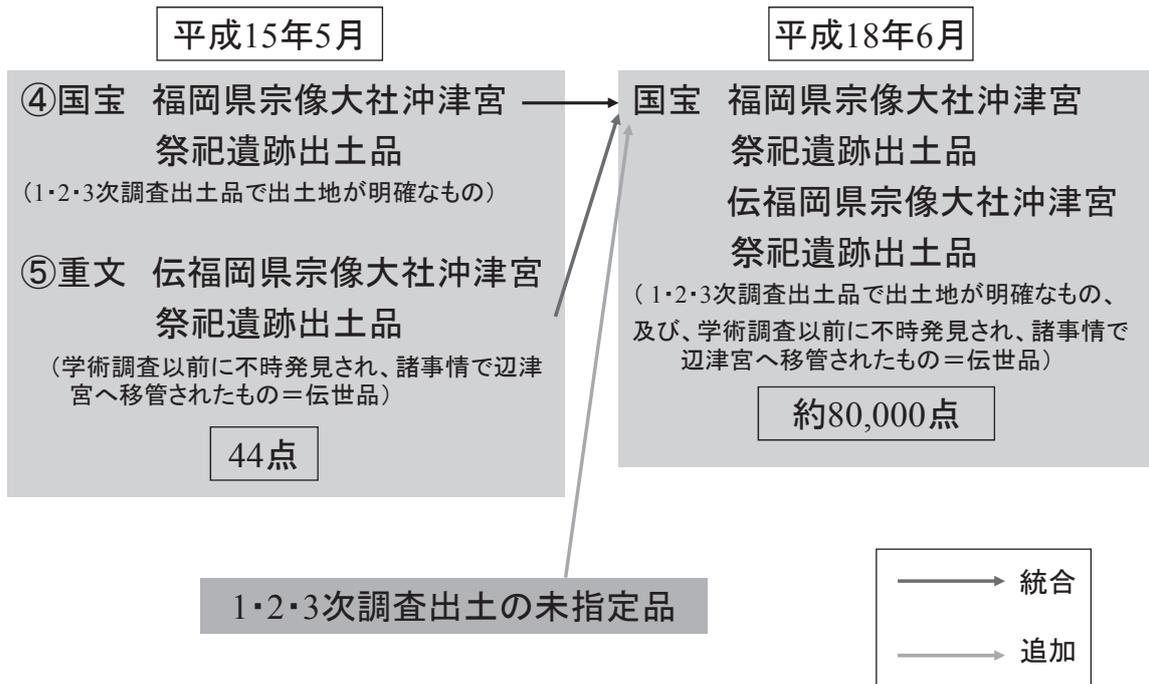
第一次・第二次調査出土品で出土地が明確なものが「筑前宗像神社沖津宮祭祀遺跡出土品」として、昭和三十四年の重要文化財指定、昭和三十六年の追加指定を経て、昭和三十七年六月二十一日に国宝に指定された（考第二九号、文化財保護委員会告示第三十二号）①。また、第三次調査出土品で出土地が明確なものは、昭和五十三年六月十五日重文指定された（考第三六六号、文部省告示第百三十一号）②。一方、これら発掘調査での出土品とは別に、学術調査以前、不時に発見され辺津宮で保管されていた「伝世品」は、「伝筑前宗像神社沖津宮祭祀遺跡出土品」として昭和三十六年六月三十日重文指定され（考第二三九号、文化財保護委員会告示第四四五号）、昭和五十四年に追加指定がなされた（文部省告示第百十四号）③。平成十五年五月二十九日、①と②が国宝として統合され、「福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品」に名称変更がされた（文部科学省告示第百二二号）④。この時、辺津宮に保管されていた金庫から発見された出土品二、三六点のうち、二二〇点が国宝へ追加された（①に一九九点、②に二二点を追加）。残りの一六点が③に追加され、「伝福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品」として名称変更がされた（文部科学省告示第百五号）⑤。また、その後の員数確認作業により⑤の点数は計四四四点であることが確認された。

さらに、平成十八年六月九日、④と⑤を統合し、第一次～第三次調査の

## 指定の経過 1



## 指定の経過 2



【図一】平成19年3月18日シンポジウム「沖ノ島を世界遺産に」  
福嶋氏講演資料をもとに作成

出土品のうち未指定分を追加して、「福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品 伝福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品」として国宝に指定された(文化部科学省告示第七十五号)。統合・追加指定に際して、出土品の点数の確認が行われ、およそ八万点が一括国宝となった。国宝指定の約八万点という点数は、平成十八年の統合・追加指定時の調査結果に基づいている。

## (二) 平成二十八年 度調査概要

宗像大社には、国宝指定の沖ノ島祭祀遺跡出土品をはじめとして、沖ノ島旧社務所前遺跡(港から西へ鳥居をくぐって岸壁に沿って設けられた細道を登ると、かつて社務所が建設されていた平坦地があり、そこに縄文・弥生時代の生活遺跡が広がっている)の出土品や旧宗像郡域から持ち込まれた地域資料など多数の考古資料が所蔵されている。平成十八年の国宝統合・追加指定から十年が経過したこと、また、世界遺産登録後の価値のさらなる究明や公開・活用を目指して、宗像大社とともに、国宝指定分の出土品点数の再確認及び宗像大社所蔵考古資料の現状・総量確認と再整理を行うこととした。

本年度は土器を中心とする考古資料の再整理に取組むこととなった。

調査・整理作業は、宗像市郷土文化課原俊一氏を中心として、宗像大社、福岡県文化財保護課、福岡県世界遺産登録推進室、九州歴史資料館、宗像市世界遺産登録推進室が共同で、平成二十八年四月十二日(火)から六月二十四日(金)まで計二十九回行われた。出土品をビニール袋に梱包、ビニール袋内の出土品の器形・点数等をラベルに記載してコンテナに収納

した。さらに、これらの一覧表を作成し、写真の撮影も行った。

本年度の調査によって、宗像大社所蔵の土器類は、器形や出土地ごとに分類され、梱包数一〇八一袋、箱(コンテナ)一九個に整理された。この整理作業で、宗像大社所蔵の考古資料全体の概要が把握され、沖ノ島祭祀遺跡出土の土器の点数は平成十八年の国宝統合・追加指定時と変更がないこと、第三次調査以降本格的な調査がされていなかった沖ノ島旧社務所前遺跡出土品(国宝指定外)の整理が進んだこと、旧宗像郡域からの出土品(大島中津宮・御嶽山・井ノ浦、旧玄海町遺跡、旧宗像郷土館所蔵資料など)の所蔵を確認したことなどの成果があった。



【写真一】調査前の保管状況



【写真二】調査の様子

### (三) 今後の課題

考古資料の整理はある程度進められたが、今後の円滑な公開・活用のために、国宝指定分も含めた宗像大社所蔵の資料全体について、より精度の高い目録（一覧表）を作成しなければならぬ。さらに、沖ノ島祭祀遺跡の調査から三十年以上が経過しており、報告書を新しい目で見直し、現代の水準で多角的



【写真四】調査後の様子②



【写真三】調査後の様子①

な研究を行う必要がある。特異なタタキ・当具痕を有する須恵器甕の抽出と拓本の採取や、蛍光X線分析による旧社務所前遺跡出土黒曜石の産地推定といった調査も本年度開始された。本年度の調査で整理が進んだ旧社務所前遺跡は、縄文・弥生時代の「沖ノ島前史」を解明する上で重要であり、その究明が急がれる。また、作業の過程で報告書のトレース図が見つかったため、それらの整理やデータ化も急務である。本年度の調査は、今後の研究の糸口となる整理作業に着手し始めたにすぎない。これらの課題を克服するため、次年度以降も宗像大社とともに調査・研究を継続していく必要がある。

## 二. 文献史料

### (一) 近世以降の史料の状況

宗像大社所蔵の中世史料は『宗像大社文書』第一巻～第四巻として刊行されており、また宗像大社神宝館学芸員河窪奈津子氏によって詳細な紹介が行われている（河窪奈津子「宗像大社所蔵文書と宗像大社中・近世史」『宗像・沖ノ島と関連遺産群』世界遺産推進会議編『宗像・沖ノ島と関連遺産群』研究報告Ⅰ、二〇一一年）。そのため、本年度の調査で対象とするのは、近世以降の未整理史料である。河窪氏の案内によって、平成二十八年四月十二日（火）に収蔵状況を確認し、次のような成果を得た。

#### ・宗像家奉納文書

旧社家の宗像家が所蔵していた史料群は、昭和五十一年に宗像辰美氏よ

り、平成二十年に子息の清文氏より宗像大社に奉納された。辰美氏奉納文書のうち中世文書は、『宗像大社文書』第二巻に、神事関係史料は同第三巻に収録されている。また、辰美氏奉納の近世文書は目録カードがあるが、データ化はなされていない。

清文氏によって奉納された文書のうち整理箱七箱分は整理済で、河窪氏によって 目録データ（文書・史料番号1001～2583※一部欠番あり、掛軸：番号1～31）と人名表が作成されている。四箱分が未整理で、全て近世史料である。これは『宗像市史』においても未調査である。

・川添昭二先生寄贈資料

川添昭二氏が研究用に蒐集された資料である。幅九〇センチ



【写真六】宗像清文氏奉納文書（未整理分）②



【写真五】宗像清文氏奉納文書（未整理分）①

のキャビネット三段分。『宗像大社文書』第四巻を校正する便宜を図るため、平成二十四年宗像大社へ寄贈された。詳細は『沖ノ島研究』本号収録の河窪奈津子氏の論考「宗像大社所蔵「川添昭二先生寄贈資料」の紹介」を参照されたい。

・和本類

六棹の筆筒に収納されている和本類については、平成十四年に河窪氏よって、「青柳種信資料目録」「禁帯出本調書・目録」「一般和本分類目録」からなる「和本目録」が作成されている。

次に掲げる資料は、明治期から現在に至る日誌類や庶務関係の書類である。昭和四十五年に渡辺克忠氏が作成し、平成十四年に河窪氏が再作成した目録データがある。目録化されている分は次の通りである。

・「辺津宮社務日誌（宗像大社社務日誌）」

明治五年から昭和四十六年までの四四冊。

・「辺津宮宿直所日誌」

明治三十七年から大正十二年までの四冊。

・「沖津宮社務日誌」

明治五年から昭和四十二年まで二六冊。

・「中津宮社務日誌」

明治六年から昭和四十三年まで三二冊。

・「沖津宮社務報告」

昭和三年から昭和四十四年まで七冊。

・「沖ノ島監視日誌」

昭和三十三年六月十八日から同三十八年四月十三日までの一冊。

・「中津宮社務報告」

昭和三年から昭和三十七年まで四冊。

※以上の資料は、断絶や一部しか残っていない年次がある。

・「庶務書類」

『宗像神社史』編纂関係資料を含む明治初年から戦前までの二十五

卷九〇冊分。

・「宮繕書類」

近世から昭和四十五年までの三十五卷（文化財復興奉賛会事業及び

昭和四十三年からの復興期成会事業を除く）。

・「文化財修復関係書類目録」

文化財復興奉賛会事業の書類三七冊。

## (二) 調査内容

本年度は、「宗像清文氏奉納文書」の未整理分四箱の目録作成作業を行うことになった。調査は、河窪氏と福岡県世界遺産登録推進室野木で行った。調査日は、六月九日（木）、七月五日（火）、七月十四日（金）、八月一日（火）、十月六日（月）、十一月八日（火）、十一月十六日（水）、十二月八日（木）、十二月二十一日（水）、一月十九日（木）、二月七日（火）、二月二十一日（火）、三月九日（木）である。

本年度の調査成果として、「宗像清文氏奉納文書」未整理分のうち書冊

の目録作成が完了し、続いて書状などの目録化作業に着手した。また、別途、「宗像辰美氏奉納文書」の近世文書目録カードのデータ化作業も進めている。本年度作成した書冊の目録を次に掲げる。

宗像清文氏奉納文書目録（書冊）

史料番号	史料名	作者／差出→宛名	年号	西暦	内容	形態・分量・備考
書冊1	宗像宮社人宗旨御改帳三冊之内真言宗	宗像郡吉田村鎮国寺	文政四年三月	1821	切支丹宗門改めに付、日置兵部卿が鎮国寺檀那であることを証す。	綴はずれ、縦帳三丁
書冊2	宗像宮社中請持神社帳	深田兵部太輔 →伊丹九郎左衛門	天保六年九月	1835	七十四社の請持について。	縦帳十三丁 (墨付十二丁)
書冊3	三大区拾小区山田霊社神殿新築御聴置願	三大区拾小区山田村信仰有志惣代花田源吾・伍長惣代大賀弥市・同惣代花田庄三郎 →第三大区々長 上野弥太郎	明治九年九月	1876	信仰の寄付にて神殿を新築することの許可願。	明治十三年四月六日付「山田霊社新築二付願」あり。 六帳、縦帳
書冊4	官幣大社宗像神社御紋 実楯				御紋の由来。	二紙
書冊5	山田霊社之儀二付願	宗像神社主典宗像秋統 →福岡県令渡邊清			増福院を神社に改めるに際して、由緒の詳細を調べ、再評するよう願。	縦帳二丁
書冊6	妙見山増福院宝物帳				花田源吾所持分を伊賀福岡へ持ち出すに付、明治十一年五月十三日安部栄次郎宅にて写す。	縦帳四丁
書冊7	福岡県下三大区筑前国宗像郡山田霊社神殿新築献資簿前文	宗像郡山田霊社神殿新築首謀信仰者謹白	紀元二千五百三十六年第七月		山田霊社神殿新築費用の寄付願。	縦帳三丁、印刷物
書冊8	廃寺願	第三大区一小区山田村伍長惣代瀧口源右衛門・同村保長花田庄三郎 →福岡県令渡邊清	明治十年一月	1877	山田村増福院の廃寺願。	縦帳三丁
書冊9	〔句集〕	深田民部之丞	嘉永七寅年三月(写)	1854		縦帳十四丁
書冊10	第八号 什物取戻ノ訴訟ニ関ス		明治十年～十三年	1877 ～ 1880	山田村増福院什物取り返しについて。	縦帳一〇三丁
書冊11	十五年第十七号主任判事安藤定格殿書記 検印願	原告宗像秋統他三名	明治十五年一月廿日～五月廿九日	1882	控訴状正副式本 紫色百式拾四枚等。	縦帳八丁
書冊12	十五年第十七号主任判事安藤定格殿書記 検印願		明治十五年	1882	明治十五年二月六日「御下渡状」(被告者居住番地不分明なるも、控訴状を仮に下渡よう願)、明治十五年三月十日付「被告答書并証憑書御下渡願」(被告人鷲尾禪岳より奉呈された答書并証憑書を下渡よう願)など。	縦帳二九丁、縦帳
書冊13	福岡県第三大区宗像郡小区山田村山田霊社宝器記	宗像秋統・三大区初掌緒形国鎮 →福岡県令渡邊清代理福岡県少書記官森醇	明治十一年五月	1878	氏雄公御印形など	縦帳二丁
書冊14	第三百六十号 什物取戻之訴状(写)	筑前国宗像郡山田村曹洞宗増福院住職鷲尾禪岳・古川善七・吉田嘉蔵 →長崎裁判所長判事瀧弥太郎代理福岡支庁判事堀真五郎	明治十二年十一月廿六日	1879	原告人 鷲尾禪岳・古川善七・吉田嘉蔵 →被告人緒方国鎮・宗像秋統・花田庄三郎他九名。 明治十二年十一月廿八日付〔答書持参命〕、地方庁所司令写三通あり。	縦帳十七丁 (墨付十四丁)
書冊15	第三号 什物取戻ノ訴訟ノ関ス				増福院再興ヨリ四代間略年表など。	縦帳一冊
書冊16	〔宗像氏忌子家系〕				宗祭から千好までの系図、妻子の法名あり。	縦帳八丁(墨付六丁)
書冊17	〔備忘録〕	宗像肇	明治		手紙、地名、植物等。	縦帳十一丁(青罫紙)
書冊18	〔口上・達控〕	寺社役所 →深田遠江守(千貫)	文化八年～文政元年	1811 ～ 1818	建物破損、作事等。	縦帳三十二丁 (墨付二十五丁)
書冊19	口上之覚	深田民部之丞(氏刑) →鈴木六十郎他二名	(嘉永六年カ) 丑十二月	1853	許斐社人・郡内神職の支配の請願。	横帳三丁
書冊20	御願申上口上之覚	深田遠江守(千貫) →小島源五右衛門	(寛政十一年カ)	1799カ	神職継目上京費用に銀二貫目の拝借願。	横帳三丁
書冊21	御禮領記				年始御礼の次第一城内への年始挨拶参向者の書上げ。	横帳八丁
書冊22	覚				稲元・土穴・田久境の船官明神由来等。	横帳四丁
書冊23	〔食膳記録〕		天保二卯カ	1831	日毎三食分飯・茶の分量。	横帳三十五丁
書冊24	〔文法本〕				テキストの写本カ。	縦帳二十六丁 (墨付二十三丁)
書冊25	〔稿本〕				『辺津宮旧事考』原稿カ。	堅紙五紙綴り
書冊26	〔稿本〕				『辺津宮旧事考』原稿カ。	堅紙三紙綴り
書冊27	神明明細帳消除之義二付願	信徒総代深田又三郎他 →福岡県知事深野一三	明治三十四年三月三十一日	1901	五穀神社の稲庭神社合祀による明細帳削除依頼。	青罫紙堅紙七紙綴り
書冊28	神明明細帳消除之義二付願	信徒総代深田又三郎他 →福岡県知事深野一三	明治三十四年三月三十一日	1901	五穀神社の稲庭神社合祀による明細帳削除依頼に付箋を付して差し戻して前号に至るカ。	青罫紙堅紙六紙綴り
書冊29	神社合祀願	社掌宗像繁九他 →福岡県知事南弘	大正二年十二月	1913	貴船神社・上高宮・妙見神社・中殿神社を氏八幡神社に合祀。	青罫紙堅紙十紙綴り、 鉄筆印刷カ
書冊30	辞職願	宗像繁九 →福岡県知事南弘	大正二年十一月十四日	1913	神社合祀による辞職。	青罫紙堅紙一紙、29と一連
書冊31	教院講録第二・三号	出羽神社宮司兼権大講義西川須賀雄	紀元二千五百三十三年八月	1873		印刷本十七丁 朱角印 「宗像神社之印」

史料番号	史料名	作者／差出→宛名	年号	西暦	内容	形態・法量・備考
書冊32	倭姫世記全 極秘	度会行忠著、深田千連(花押)書写	貞享元年甲子八月吉日写	1684	内題「倭姫命世記」※神道五部書のひとつ。	縦帳四十一丁
書冊33	大風騒動記		安政五年正月写	1858	文政十二年到新將軍が悪虫共を退治し太平の世を作る説話。	縦帳十四丁
書冊34	宗像軍記 上					縦帳十丁、朱角印「深」「辰美」
書冊35	宗像記追考 卷四・五	占部宗仙				縦帳一冊
書冊36	唯一神道口決					横帳十丁
書冊37	〔覚書〕		文化十五年	1818	上申・下達類・金銭出納等の記録、四月から五月分。	横帳、表紙あり、前後欠
書冊38	〔社務日誌〕	「寅年番 高向大和秀盛・豊福左内秀周」	寅正月(文政元年カ)	1818カ	深田千貫存命中カ、正月元日から四月七日。	横帳
書冊39	〔社務日誌〕				八月廿八日から年末	横帳、前欠
書冊40	〔社務日誌〕		文政元年寅	1818	三月から八月	横帳、前後欠
書冊41	〔社務日誌〕	「寅年番 深田右衛門太夫氏胤・嶺宮内丞氏福」	文政四辛巳年	1821	一月から十二月	横帳 表題「御帶カ方御記帳」
書冊42	諸事覚書		嘉永三年二月	1850		横帳
書冊43	〔筑前国統風土記〕	深田氏	文化十三年丙子三月四日	1816	宗像郡上巻	縦帳一冊
書冊44	七夕	深田氏□	文化十一年戊戌六月	1814		
書冊45	詠草					縦帳五四丁(墨付五一丁)
書冊46	古事記序	深田千義	文化十四年丑八月五日(写)	1817		
書冊47	春振山 春振神社	深田遠江守	文化五辰年三月廿六日	1808	筑前国統風土記早良郡部の春振山の箇所を写す。	縦帳九丁
書冊48	六月契祓				祝詞。	折本
書冊49	〔末社覚書〕				宗像大社の末社について記す。北嵯明神、国玉明神社、五位社、河上社、息正三位社についての記述多し。	縦帳十二丁
書冊50	〔覚書〕				社名の起因、撰末社及び父子・兄弟・夫婦神等の関係、古来奉仕せし姓氏種族并沿革、歴代の崇敬者などについて、筑前国統風土記巻之十七宗像郡上(写)、明治廿七年一月廿七日「神社ノ事蹟取調ノ儀ニ付疑義の件何」。	縦帳一冊
書冊51	〔覚書〕				借用証文の事、宅地永代相伝売渡代金受取申す証書の事、地券証写など。	縦帳三十冊
書冊52	日月神之秘				神系、神名の秘伝。	縦帳
書冊53	玉くしげ 下	本居宣長	文政十二丑八月	1829	宗像千聡が青柳種信写本を写。	縦帳、写本
書冊54	香椎宮勅使差遣願		大正十三年七月	1924	付、香椎宮参向勅使抄。	ガリ版一冊、ペン書き一紙
書冊55	御触状御用状写		文政十三年寅	1830	藩役所からの下達類の写。	縦帳
書冊56	〔辺津宮旧事考〕稿本	深田千貫			冒頭部分「太宰管内志」宗像郡。	縹色表紙縦帳
書冊57	〔香椎宮奉幣使参向次第〕	原田種美	文化元年甲子四月十一日	1804	京都からの道程、行列次第、衣装等詳細。	縦帳、題箋欠損
書冊58-1	享保十五年庚戌年日記	宗像千連・千好	享保十五年	1730		横帳
書冊58-2	享保十六年辛亥年日記	宗像千連・千好	享保十六年	1731		横帳、二冊合綴り
書冊59-1	宗像郡田島宮寄進帳	宗像民部氏刑	(安政五年カ)午	1858	阿部長門一任を使者に国中に寄進を募る三奈木村他。	縦帳
書冊59-2	宗像郡田島宮寄進帳	宗像民部氏刑	(安政五年カ)午	1858	同上 山田村・菱野村他。	縦帳
書冊59-3	宗像郡田島宮寄進帳	宗像民部氏刑	(安政五年カ)午	1858	同上 久喜宮村・若市村他。	縦帳、三冊合綴り
書冊60	宗像宮神供願主帳	宗像大宮司深田遠江守千貫、朱角印「宗像朝臣」	文化十年八月	1813	初穂上納の依頼、鐘崎浦庄屋久五郎以下奉納者連名。	縦帳
書冊61-1	損毛二付拝借米願一件控帳	深田兵部大輔千聡→伊丹九郎左衛門	天保八年二月	1831	七年の拝借願と拝借米分配、請取一件の写。	縦帳
書冊61-2	借状帳	社家各人	天保八年三月	1831	拝借証文のひな型。	縦紙一綴り
書冊61-3	拝借米付与の旨達状控	伊丹→受取人	天保八年四月廿二日	1831	米渡し旨下達。	一紙、61-1～3一括
書冊62	大神宮秘伝問答 全	天牟羅雲命四十四世孫権祐宜従五位上 度会神主延良	万治三年三月日(元禄五年二月に写)	1692	大宮司宗像朝臣忌子深田兵部大輔千連の署判あり。	縦帳二八丁(墨付二七丁)
書冊63	嘉麻郡御初植取立帳	深田遠江守(花押)→嘉麻郡大庄屋衆中	文化七年午ノ三月	1810	午ノ年御初植 銭六貫文 綱分大庄屋 忠平(印) 右同 同六貫文 漆生大庄屋 与平次(印) 未年神納 同六貫文 漆生村大庄屋 与平次(印)	縦帳四丁

史料番号	史料名	作者/差出→宛名	年号	西暦	内容	形態・分量・備考
書冊64	答礼集巻之記				第一 目安之事并三問三答之事 第二 問状之事 第三 引(?)札之事 第四 過去帳之事 第五 手負差別之事 第六 軍用諸事旅之事 第七 白紙之状之事	縦帳二十丁
書冊65	御社参御代参一卷	大宮司深田氏清(千好)	宝暦十年辰正月方三番	1760		縦帳二九丁(墨付二八丁)
書冊66	御斬附(御造榮)并御修処分				御寄進ノ品分 目録あり。	縦帳三四丁
書冊67	宗像宮社人中宗旨御改帳	深田兵部太輔 →木山平助殿・三好市太夫殿	天保十年三月	1839		縦帳六丁
書冊68	永代日御供志帳				筑前国中の毎朝祈祷志者の書上げ。	縦帳(後欠)
書冊69	神社取調の件太政官達状写	太政官 →国内大小神社	(明治三年)庚午十二月	1870	社殿・祭神・神位等の報告を命ず、明治四年正月十日写。	縦綴り三紙
書冊70	官幣大社宗像神社祭神御事歴御由緒略記		明治三十四年	1901以降	祭神・由緒・同神の神社等。	縦綴り五紙
書冊71	御社参御第参一卷	大宮司深田氏清(千好)	宝暦四年戌九月	1754	宝暦四～九年の藩主代参次第。	縦帳
書冊72	各種通達	福岡県	(明治四年)辛未十一月	1871	廃藩置県・火薬運送・長寿者等の通達。	縦綴り十六紙
書冊73	疫神齋				疫神払、疫塚の設え。	横帳六紙
書冊74	[祭神神力次第]写		享禄三年庚寅七月吉日	1530	天神地神と「三韓征伐」での宗像神等、神々の役割。	縦帳八紙
書冊75	[歌集稿本カ]				兼題、和歌 作者。	縦綴り八紙
書冊76	宗像神社古今神領之次第控・宗像宮神領并社家名元書上之覚控	深田兵部太輔(千聡) →久野作右衛門・小島源五郎(寺社役所)	天保二年七月	1831	江戸期以前の神領・福岡藩下の社領と社家の書上。	縦帳
書冊77-1	諸願詣指出控帳	深田兵部太輔(千聡) →木山平助・三好市太夫(寺社役所)	天保九年戊戌正月～九月	1838	長寿者・金子拝借願・請持神社・社殿修理等の報告・上申書。	縦帳
書冊77-2	溜金拝借当年分上納書	深田兵部太輔(千聡) →寺社役所	(天保九年)戌十一月	1838	元利二百二十七匁五分=金三兩二歩の返納。	縦紙一通
書冊78	宗像宮略記稿本	深田千貫著				縦帳
書冊79	[筑前国郷村社数・神官員数表]	各区祠官→?	明治十年六月	1877		縦帳
書冊80	慶安太平記巻十「奥州仙台敵討之事」		明治三年以降	1870以降	「宗方郡三田尻 辱ナクモ中村大食官所有物也」	書冊
書冊81	[三河(豊福秀栄カ)一件口上書]	深田兵部(千貫) →森半兵衛・宮川次郎右衛門	寛政二年二月	1794	秀栄の神勳停止、配下除きに付同人申出との相違を上申。	横帳五丁
書冊82	[神道関係史料]				天元天妙神辺加持、灑水加持、神鈴加持についてなど。	綴はずれ、順不同、後欠カ
書冊83	中臣祓				紙背に国別の神名を書きあげる。	中欠、後欠
書冊84	唯一神道行事	大宮司宗像朝臣千連(印)			参詣次第、御戸開事、神供備事など。	
書冊85	[祝詞・祝文]				祈祷祝詞、汲新水祝文、欽初祝詞、除蝗祝詞、祭養蠶(蚕)神祝詞、祈豊稔祝詞、牛馬屋祝文、庚申祭祝文、海神祭祝詞。	前欠、中欠、後欠
書冊86	粥了諷経				歴代大和尚、宗像七十九世英霊、本朝人皇歴代皇帝(江戸幕府將軍)などを書き連ねる。	のりはがれ
書冊87	六根清浄太祓	神道管領(印) →宗像千好	寛保二年七月九日	1742		
書冊88	三元十八神道加行次第					
書冊89	十八神道加行次第					
書冊90	唯一神道守札秘伝書					
書冊91	三元十八神道次第		寛政十一年六月二十四日	1799		縦帳十三丁(墨付十一丁)
書冊92	三元十八神道次第					綴・裏表紙はずれ、後欠
書冊93	[表紙]					中身なし
書冊94	[表紙]					中身なし
書冊95	[表紙]					中身なし
書冊96	[三元十八神道次第断簡カ]					書冊93～95の中身カ。
書冊97	[神道史料]				(異筆) 表:「三十番神」日毎の神名を記す。 裏:深田兵部太輔宗像朝臣千連の「天下大平国家安全殊当国主御武運長久延寿祈攸」	後欠
書冊98	[修理についての覚書写]		西三月明和六年十二月達書写、丑十二月、延享二年七月、辰九月、辰十一月	1769	寺社奉行より、以後、諸堂寺院の小破の分は自分で修理を加えるよう通達。	五丁
書冊99	諸記録 文政二年より文政三年	遠江守千貫	文政二年～文政三年	1819～1820	大宮司氏貞寄進の撞鐘を神事祭祀に用いざること、当年に九十歳、百歳の者がいないこと、僧形を社人に改めることについての願について。	一冊

史料番号	史料名	作者／差出→宛名	年号	西暦	内容	形態・分量・備考
書冊100	諸記録 文政四年より文政五年	遠江守千貫	文政四年～文政五年	1821 ～ 1822	私宅風雨にて風転、当年に九十歳、百歳の者がいないこと、千貫俸兵部大輔、宗像郡八並村庄屋弥八と申す者の娘と縁組することについて。	
書冊101	御宮銀仕調物其外 <郡方指出>控	深田兵部大輔	天保九年正月	1838	通夜殿大風にて破損したため、郡中よりの修理にて障ぐなどのことについて、宗像宮破損諸品指出之覚。	
書冊102	別紙之通管内早々可相達之事	福岡県	辛未十二月		郵便料金の定、賃銭払方之心得について。	
書冊103	〔「辺津宮旧事考」原稿〕	深田千貫				
書冊103-1	○安部氏祖関係史料		文政七年控	1824	安部長門の依頼で控を渡す。	五紙
書冊103-2	○地主霊神由来				江口浦庄屋甚三郎屋敷の小社。	一紙
書冊103-3	○旧事本紀五巻抜書					一紙
書冊103-4	○国造本紀抜書					一紙
書冊103-5	○薬師仏背銘		文政三年写	1820	山下の薬師木造仏。	半紙
書冊104	宗像三神古徴探要・宗像系譜 抜萃・宗像旧領目録案					縦帳一冊
書冊105	宗像宮造営記録	深田遠江守千貫 →寺社役所	寛政十一年～ 文化十五年	1799 ～ 1818	社殿・施設修理造営の請願書控集。	縦帳一冊
書冊106	〔日米通商条約締結後〕御達 状写		安政五年六月 廿一日	1858	各地の警護役、外国船動向、幕府の動向等。	奥書より「在青柳宿の代官所持書付を書写する、広重母」
書冊107	諸祭書		文政三年九月 廿一日（正遷 宮）	1820	元日神事以下、諸神事次第、祝詞等。	一冊
書冊108	諸願諸指出帳	深田兵部大輔（千聡）時代	天保十二年丑 正月	1841		縦帳一冊、関係文書数通添付
書冊109	御社参御心願御代参一卷	大宮司宗像氏清（千好）	寛保三年～宝 暦四年	1743 ～ 1754	藩主代参の記録。	一冊
書冊110	御宮銀修覆口々郡方引合控	深田兵部大輔（千聡）時代	文政十一年	1828	神社施設・備品調達の依頼。	縦帳一冊
書冊111	神社書上帳	深田遠江守（千貫）宛	文政三庚辰年 三月四日	1820	統風土記再調査のため、郡内各神社請持者が書き上げる。	一冊、二紙一綴（この分は後世）
書冊112	諸願諸指出帳	深田兵部大輔（千聡）指出	天保十四年	1843		縦帳一冊、関係文書添付
書冊113	御触状御用状写	深田兵部大輔（千聡）宛	文政十四年	1831		一冊
書冊114	日月神之秘				天神の神系。	大縦帳一冊
書冊115	〔「辺津宮旧事考」原稿〕	深田千貫			本社・末記述部分、附「本社末社復興記」。	合冊一冊
書冊116	宗像宮社家人高宗旨増減帳	深田兵部大輔（千聡）指出	天保十三年三 月	1842	宗旨改（禪宗医王院・興聖寺・真言宗・浄土宗）と合冊。	六冊合冊
書冊117	上座郡御初穂取立帳	深田遠江守（千貫）（朱角印） →上座郡大庄屋衆中	文化七年午三 月	1810	丁銀六貫文上納（異年の久喜宮・比良松・大庭各大庄屋上納）。	五紙一綴り
書冊118	〔歌集〕		天保四年以降	1833 以降	題詠、青柳種信を招いての歌会もあり。	書冊一冊
書冊119	月次歌合				参加者十五人。	九紙一綴り
書冊120	筑前国十九神社名記	大宮司深田権少輔忌子宗像 千好（花押）	享保十八年五 月吉日	1733	式内社カ、附、宗像宮神領。	六紙一綴り
書冊121	唯一神道参詣之記	深田権少輔千連（花押）	貞享二乙丑歳 三月十日	1665	参詣の手順、次第。	九紙一綴り
書冊122	出仕帳・番帳・判帳并服忌届 仕法定書		辰十二月		福岡藩の定書。	十紙一綴り
書冊123	御社頭向御修理寄付帳	吉田山社頭向御修理過方役 所（「神物納所」角執印） →筑州辺津宮社家方中	天保西八年七 月	1837	太元宮大破により修理再興の寄付依頼。	四紙一綴り
書冊124	宗像宮社家人高宗旨増減帳	深田民部之丞（氏刑） →鈴木六十郎・濱兵太夫・ 森仁左衛門	嘉永七年三月	1854	社家人数・死亡・社家転出入・出産、都合百人の報告。	七紙一綴り
書冊125	宗像第一宮御宝殿置札写	宗像擬大宮司（「宗像宮司」 朱角印） →謹上継年君	宝永辛卯八年 中夏日	1711	遷宮置札は既に提出済。	縦帳一冊
書冊126	筑前国宗像宮末社記	殿上職吉田市正吉勝カ	千貫時代			九紙一綴り
書冊127	〔「辺津宮旧事考」原稿〕	深田千貫			末社に関する記述。	書冊一冊
書冊128	御社用一切控	深田千貫カ	文政二己卯年	1819	日並兵部卿社人となる旨、氏貞批判の記述。	三紙一綴り
書冊129	〔「辺津宮旧事考」原稿?〕	深田千貫			御祭神の記述、延宝三年の造営の文あり。	五紙一綴り
書冊130	宗像神官の事稿本	宗像秋統	明治三年	1870	宗像家由来、神事について。	十紙一綴り
書冊131	明治政府・福岡県通達		明治四辛未	1871	諸通達の控。	縦帳一冊
書冊132	宗旨御改帳・人高宗旨増減帳	深田兵部大輔（千聡） →東郷三九郎・辛島喜太夫	弘化四年三月	1847	禪宗・真言宗・浄土宗の人別と社家人数の報告。	五綴り一括

史料番号	史料名	作者／差出→宛名	年号	西暦	内容	形態・法量・備考
書冊133	宗像宮社家中人高宗旨増減帳	深田民部之丞（氏刑） →鈴木六十郎	安政三年三月	1850	社家人数・死亡・社家転出入・出産、都合九十七人の報告。	四紙一綴り
書冊134	宗像宮社家中人高宗旨増減帳	深田民部之丞（氏刑） →濱兵太夫・鈴木六十郎	安政六年三月	1853	社家人数・死亡・社家転出入・出産、都合九十二人の報告。	三紙一綴り
書冊135	宗像宮大宮司宗旨御改帳	深田民部之丞（氏刑） →牧市内・立川休兵衛	万延二年三月	1861	興聖寺檀那。	四紙一綴り
書冊136	宗像宮社人中宗旨御改帳	深田民部之丞（氏刑） →鈴木六十郎・浜兵太夫・川越又右衛門	安政二年三月	1849	禪宗。	縦帳一冊
書冊137	宗像宮社人中宗旨御改帳	禪宗寺院 →宗像遠江守（氏刑）	慶応四年辰三月	1868	禪宗。	縦帳一冊
書冊138	歌会出席帳	深田千貫			兼題に各詠歌。	縦帳一冊
書冊139	歌集稿		天保二年以降	1831以降		縦帳一冊
書冊140	大織冠啓白文 全	宗像朝臣深田権少輔千連 (花押)	延宝三年八月吉日	1675		縦帳一冊
書冊141	孔大寺宮献灯寄附帳	子正月			二月二日御祭礼に神前に差送ったもの。	横帳十三丁
書冊142	奉願口上之覚	中尾神太夫 →深田兵部大輔様	二月		村方より社領五拾石分差し出すことについて。	横帳五丁。 付箋四枚あり。
書冊143	借用証文之事	深田守遠江守 →池田村庄屋藤左衛門殿	文政九戌年四月	1826	六十文銭六百目について。	他に「請合証拠之事」について 横帳十一帳
書冊144	御触状写帳	深田兵部（印）	寛政七乙卯年正月	1795	代参のこと、九十・百歳の有無についてなど	縦帳三四丁
書冊145	唯一神道行事秘本				参詣次第、御戸開之事、神供備次第など。	縦帳六三丁
書冊146	宗像家領知（ママ）覚					中世の宗像社領についての由来か？
書冊147	宗像家領知（ママ）覚					中世の宗像社領についての由来か？
書冊148	□考并兄の橋略弁	宗形千	文政九年薬月十三日・文政七年弥生十三日	1826	御廟院の由来について。	縦帳九丁
書冊149	宗像宮社人中宗旨御改帳	深田民部之丞 →牧市内殿・立川休兵衛殿	万延二年三月	1861	四冊之内禪宗（宗像郡勝浦照月庵昆首座・同郡大井村秀円寺国豊・同郡田島村医王院本光・宗像郡田島村興聖寺元首座の署判あり）	縦帳十四丁
書冊150	宗像宮社人中宗旨御改帳	深田民部之丞 →牧市内殿・立川休兵衛殿	万延二年三月	1861	四冊之内真言宗（宗像郡吉田村鎮国寺観水の署判あり）	
書冊151	宗像宮社人中宗旨御改帳	深田民部之丞	文久二年三月	1862	四冊之内浄土宗（宗像郡勝浦村大乘院体誉の署判あり）	
書冊152	宗像宮社人中宗旨御改帳	深田民部之丞 →牧市内殿・寺井茂八郎殿				
書冊153	唯一神道遷宮之大事 全	深田権少輔千連（花押）	元禄十一年寅正月吉日	1698		縦帳九丁
書冊154	陰陽三元十八神道次第		寛政十戊午年三月	1798		縦帳十三丁
書冊155	宗像宮社家中人高宗旨増減帳	深田兵部太輔 →東郷三九郎殿・辛島嬉太夫殿	弘化四年三月	1847		縦帳四丁
書冊156	宗像宮社家中人高宗旨増減帳	深田民部之丞 →鈴木六十郎殿・濱兵太夫殿・木村仁左衛門殿	嘉永七年三月	1854		縦帳六丁
書冊157	下座郡御初植取上帳	深田遠江守（印） →下座郡大庄屋衆中	文化七年三月	1810		縦帳五丁
書冊158	〔宗像宮社家中人高宗旨増減帳〕	宗像郡勝浦村照月庵儀首・同郡大井村秀円寺胡宗・同郡田島村医王院一宗・宗像郡田島村興聖寺祥雲 →深田民部之丞殿	嘉永六年三月	1853		縦帳九丁
書冊159	唯一神道行事本	大宮司宗像千好	延享四年四月吉祥日	1747		縦帳八丁
書冊160	御触状写帳	深田兵部	寛政十年戊午三月	1798		縦帳二三丁
書冊161	春振山上宮参詣にかかる往年旧記	深田民部秋統	貞享四年～元禄六年	1687～1693	※詳細検討必要カ。	縦帳一冊
書冊162	御触写	深田遠江守（千貫）	文化三年	1806		縦帳一冊 表紙欠
書冊163	宗像第一宮御宝品御神具帳	深田兵部（千聡）	天明六年	1786		縦帳一冊
書冊164	宗像宮神供願主帳	宗像大宮司深田遠江守（千貫）（朱角印）	文化九年十月	1812	博多の各町の人々に祭礼斎行の寄付を募る。	縦帳一冊
書冊165	御供初穂神納覚帳	深田氏刑	弘化三年午閏五月十七日	1846	宗像郡内村々からの初穂。	横帳一冊
書冊166	敬神愛国ノ旨ヲ體スヘキ事		明治			二紙
書冊167	〔敬天の演説草稿〕		明治			一綴り

史料番号	史料名	作者／差出→宛名	年号	西暦	内容	形態・分量・備考
書冊168	補略		文久三年正月一日	1863	各公家当主の名、年齢、官職	小横帳
書冊169	日並兵部卿社人成記録	宗像大官司深田遠江守(千貫)(黒丸印)	文政七甲申二月	1824	社僧から社人となる経緯一件	縦帳一冊
書冊170	宗像宮社人中宗旨増減・改帳	深田兵部太夫(千聡)	嘉永二年三月	1849		四冊合冊 ※一冊目破損大
書冊171	正・下遷宮行列次第	深田千好	寛保三年・宝暦六年・元文元年	1743・1736・1756	行列次第と担当者名	三紙綴り
書冊172	宗像三神古徴要抜粹・末社記并古殿舎広狭記	社家中 宗像遠江守(氏刑)以下十人	慶応四年五月	1868	祭神・末社・社殿について	縦帳一冊
書冊173	[民間療法記]					縦帳一冊
書冊174	唯一神道行事本 風祭并疫神祭之次第	宗像千好(花押)	享保十七年閏五月吉日	1732	雨請之次第	縦帳七丁
書冊175	[雑記]	宗像忌子千時(花押)	元禄十六年十一月十五日	1703	宗像第一宮御飯池記 神紋石記 宗像第一宮末社復興記 宗廟社稷之事 悠紀主基乃事 大嘗会之事 神道伊呂波伝 神道太意 大織冠御啓白文	縦帳二六丁
書冊176	宗像宮末社考					縦帳一四丁
書冊177	御宮銀修覆口々郡方引合控		文政十四年卯正月	1831	大風による転木の代金を上納すること(四月 深田兵部大輔→大塚六内様)、社地転木代上納すること(七月六日 深田兵部大輔→大塚六内様)について。	縦帳四丁
書冊178	宗像宮末社考					縦帳十六丁
書冊179	天照皇大神御子宗像宮本社從神末社小神已下并年中行事等目録事					一冊
書冊180	麗水加持次第	宗像朝臣深田権少輔忌子千好(花押)				縦帳四丁
書冊181	宗像宮学頭豊福常陸介請持					縦帳六丁
書冊182	[末社書上]					縦帳二六丁
書冊183	諸願控帳	深田兵部	正徳六年二月 享保元年七月迄	1716	宗像宮諸道具破損仕候ニ付指出仕上事、今度宗像田嶋宮社人宋女と申者於吉田殿評□申請に罷登候条往来御切手御出可被下候事、田嶋宮門松指出之事について。	縦帳一四丁
書冊184	宗像宮書出覚				宗像宮御神座之次第、社家請持之神社。	一冊
書冊185	文政二乙卯年中御社用一切控					縦帳四枚
書冊186	宗像宮社人中宗旨御改帳 四冊之内 禪宗	深田民部之丞 →鈴木六十郎殿・矢野太左衛門殿	安政三年三月	1856		縦帳一二丁
書冊187	社中宗旨請証摺控帳	深田兵部大輔 →小河武兵衛殿・野坂利左衛門殿	天保十四年卯正月	1843		縦帳七丁
書冊188	御供料日記	花田春郷	天保八年丁丙十二月	1837	宗像宮領之裏銘写(青柳種春謹識)。	縦帳一四丁
書冊189	宗像大明神之事					一冊
書冊190	[文化九年四月公義測量方御領内海辺測量に際して神湊裏よりの書上]		文政三年辰二月写	1820		一冊
書冊191	深田備後書上覚	深田備後 →森源左衛門殿・梶原十兵衛殿	安永二年三月	1773	深田家代々について。	縦帳一四丁
書冊192	詠草	宗像千聡			和歌113首。	縦帳一四丁
書冊193	筑前国統風土記附録御調神宝・末社帳	深田遠江守(千貫) →井出勘七・小南甚三郎・宮本吉之丞	文政三年三月	1820	※青柳種信の調査があることの伝達あり。	一冊 表紙大破
書冊194	塵劫記	深田氏盛所持カ			江戸時代の和算書、天保十三年(1842)奉納カ。	一冊
書冊195	[「筑前国統風土記拾遺」宗像郡中 稿本]				青柳種信自筆。	一冊
書冊196	[宗像宮諸事書上]		享保十四年	1729	阿弥陀経石・社殿・神事等。	一冊
書冊197	金銀具使用につき達状	公儀 →各国家中・郡町浦	文政以降		金銀具使用規制、各時期金の換算。	一冊
書冊198	[深田氏実書状]	宗像宮擬大官司深田浪江氏貫→浪津御村中 庄屋市三郎・刀根仁様・刀根新九郎様等。	文久二年壬戌八月	1862	神役相動むるにより日御供之御祈持札を差出申すの条御受納下さるべく候について。	縦帳一六丁、地破れ。
書冊199	御触状写帳	深田兵部(印)	寛政六甲寅年正月	1794	寺社参詣、姫君様逝去のため鳴物停止についてなど。	津加計志神社、孔大寺権現御札の紙背を利用。 縦帳四五丁

・史料名は、原題があるものはそれを史料名とし、ないものは〔 〕で適宜史料名を付けた。

### (三) 今後の課題

作業人数が少ないこともあり、今年度で作成が完了した目録は書冊のみであった。次年度も残りの未整理分について、目録化の作業を継続することになる。また、今後、次のような作業が発生すると考えられる。

- ・「宗像清文氏奉納文書」…整理分も含めた写真の撮影
- ・「沖・中・辺社務日誌」「辺津宮宿直所日誌」「沖・中社務報告」「庶務書類」…既存目録の内容確認とより詳細な目録作成、及び未作成分の目録作成（現在も使用されている史料であるため、作成が許可されるのみ）。

・「和本目録」（青柳種信資料・禁帯出本・一般和本）…写真撮影（撮影が許可されるのみ）。

・川添昭二先生寄贈資料…資料のPDF化。

・色定法師一筆一切経奥書…修理に伴う員数変更によって重文指定の巻数が変更されたが、調査が不十分であるため、再調査及び撮影。

### おわりに

以上、平成二十八年度の調査概要を記した。本年度の調査により、考古資料・文献史料ともに継続中の作業が生じており、また今後作業すべき課題がみえた。これらの課題に基づき、次年度も宗像大社とともに引き続き調査を進めていくこととする。